



6月 ちとせだより

幼保連携型認定こども園
神戸YMCAちとせ幼稚園

6月を迎えました。日中の気温がどんどん上がることで、春から夏の訪れを感じるようになりました。汗をいっぱいかいて、走り回る子どもたちの姿もよく見かけます。また砂場の上の藤棚には、毎日のようにたくさんの毛虫があらわれ、子どもたちは、興奮気味にスコップでつついてみたり、スコップの上に乗せて、嫌がる先生やお友だちを嬉しそうに追いかけたり、虫かごに何十匹もの毛虫を入れて、得意げに眺めていたり……。この時期は毛虫にかかわらず、蟻やダンゴムシ、小虫などたくさんの生き物と出会い、それぞれがそれぞれの感性で虫と向き合っている姿を微笑ましく見えています。しかしながら、無残にも踏み潰したり、握りしめたり、水を溜めたバケツに放り込んだり、生き物にとっては、「頼むから勘弁してくれよ！」と言っているかのような場面もよく見かけます。ついつい大人は、「なんでそんなことするの!？」「虫もかわいそうだから、そんなことしたらダメ」、「大事にしてあげて!」とその行動の善悪を教えようとしますが、きっと子どもたちは虫が憎くて、苦しい思いをさせてやろうと思っている訳ではなく、好奇心に突き動かされての行動だと考えられます。「動いていた虫を踏んだり、握りしめたら、動かなくなってしまった。」という現実直面し、小さな虫にも命があるということを頭ではなく、実体験を通じて学んでいくのではないのでしょうか。興味を持ったことをやってみる前にその行動が良いか悪いかを判断され、行動に規制がかかると、本当の気づきを得るチャンスはどんどん失っていきます。

このように正直であるからこそ、子どもたちの言葉や行動は、得てしてきれいなものではありません。保育の現場でも子ども同士の関わりの中で、大人にしてみれば理不尽な人間関係はたくさん見られます。前述の虫に対してではありませんが、その相手が憎いわけではないのにきつい言葉を投げかけたり、何もしていないのに怒ったり、怒られたり、理解できない思いを経験することもたくさんあるでしょう。しかし、そのような理不尽な人間関係は、幼児期だからこそ経験できる大切なものであり、そのような経験を通じて自分の気持ちに向き合い、そして相手の気持ちを考えられるきっかけを得ていくはずです。

夏に向けて、虫たちと共に子どもたちの思いや行動も大きく動き出していく時期です。その動き出しを丁寧に見守っていけるよう保育も進めていきたいと思えます。

【年主題】

『共に喜んで』～すべての歩みの中～

【年主題聖句】

一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、
一つの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜ぶのです。

(コリント信徒への手紙Ⅰ 12章26節)

6月主題 「動き出す」

聖句 「野原の花がどのように育つかを考えてみなさい。」

(ルカによる福音書12章27節)